

所持被服に関する調査結果について

— その 1 — (女子学生の場合)

野 村 晶 子

目 的

手持ち被服に関する調査報告は数多いが、本調査は、第一次石油ショックを経験し、又、現在のインフレーション経済下では、所持被服は、いかに選択（購入）、着用、保存されているのか、東京都内女子学生（19才～20才）を対象に、被服の種類別に、その構成材料（繊維）、所持年数について調査し、その平均的傾向（実態）を把握し、今後、被服管理、被服計画、及び被服学教育に資することを目的とする。

方 法

①対象……短大女子学生（19才～20才）95名。②調査手法……質問紙法。（SS自身が所持被服を調べる。）③調査期間……昭和51年9月（1ヶ月間）。

結果及び考察

Table (1)に示すように、回答者は95名で、被服の所持総枚数は11875枚（布地の買い置き、ハンカチーフを含む。）で、一人平均125枚の被服を有することになる。又、被服の種類別にみると、ハンカチーフ（実数1155枚、パーセンテージ12.1）が最も所持枚数が多く、次いで、スカート（998枚、10.5パーセント）であり、いずれも、平均的にみて一人10枚以上を所持しているということにもなる。①ブラウス（長袖）、②ソックス類、③セーター、④ブラウス（半袖又はノースリーブ）が、次群としてリストアップされる。（①941枚、9.9パーセント）、（②820組、8.6パーセント）、（③767枚、8.0パーセント）、（④651枚、6.9パーセント）殊に所持枚数の少ないものは、寝間着（きもの式）であり、（実数20枚、パーセンテージ0.2）次いで、布地の買い置き（55枚、0.5パーセント）、ショール（61枚、0.6パーセント）、タイツ（69枚、0.7パーセント）である。又、スーツ（72枚、0.8パーセント）、ツーピース・ドレス（76枚、0.8パーセント）、部屋着（79枚、0.8パーセント）、着物（袷、単衣、平常着）の（83～84枚、0.9パーセント）所持枚数は少ないという結果をみた。平均的にみて、

そのパーセンテージから、一人1枚は所持しているものとしては、実験着（実数106枚，パーセンテージ1.1），ショートパンツ（91枚，1.0パーセント），ヤッケ（ジャンパー）（103枚，1.1パーセント），レインコート（ダスターコート）（137枚，1.4パーセント），トレーニングパンツ（134枚，1.5パーセント），足袋（140枚，1.5パーセント），水着（149枚，1.6パーセント），和服下着（襦袢類）（166枚，1.8パーセント），ジャンパースカート（173枚，1.8パーセント），帯（178枚，1.9パーセント），帽子類（176個，1.9パーセント）である。平均的にみて、一人2枚を所持するものとしては、ゆかた（実数194枚，パーセンテージは2.0），オーバーコート（220枚，2.3パーセント），手袋（ミトン）（230組，2.4パーセント），ジャケット（ブレザーコート）（239枚，2.5パーセント）があげられる。以下、一人3枚を所持するものとしては、エプロン類（実数301枚，パーセンテージ3.2），ベスト（306枚，3.2パーセント），ニットスポーツシャツ（323枚，3.4パーセント），布製スポーツシャツ（343枚，3.5パ

Table(1) 被服の所持枚数と百分率（N=95）

種 類	所持枚数	実 数	百分率	種 類	所持枚数	実 数	百分率
オーバーコート（マント）		220	2.3	着物（袴）		84	0.9
レインコート（ダスター）		137	1.4	着物（平常着）		83	0.9
実験着（白衣）		106	1.1	ゆかた		194	2.0
スーツ		72	0.8	帯		178	1.9
ツーピースドレス		76	0.8	寝間着（きもの式）		20	0.2
ワンピースドレス		440	4.6	ネグリジェ（パジャマ）		439	4.4
ジャケット（ブレザー）		239	2.5	和服下着（襦袢）		166	1.8
ブラウス（長袖）		941	9.9	エプロン類		301	3.2
ブラウス（半袖，ノースリーブ）		651	6.9	ソックス類		820	8.6
セーター		767	8.0	タイツ		69	0.7
カーディガン		378	3.9	足 袋		140	1.5
ニットスポーツシャ		323	3.4	帽 子 類		176	1.9
布製スポーツシャツ		343	3.5	手袋（ミトン）		230	2.4
スカート		998	10.5	ショール（ストール）		61	0.6
パンタロン（スラックス，Gパン）		448	4.7	スカーフ類		418	4.4
ショートパンツ		91	1.0	布地（買いおき）		55	0.5
水 着		149	1.6	ベスト		306	3.2
ヤッケ（ジャンパー）		103	1.1	ジャンパースカート		173	1.8
トレーニングパンツ		134	1.5	ハンカチーフ		1155	12.1
部屋着（バスローブ）		79	0.8	Total		11875	\bar{X} 125

Fig (1) 被服別所持枚数 (平均) N=95

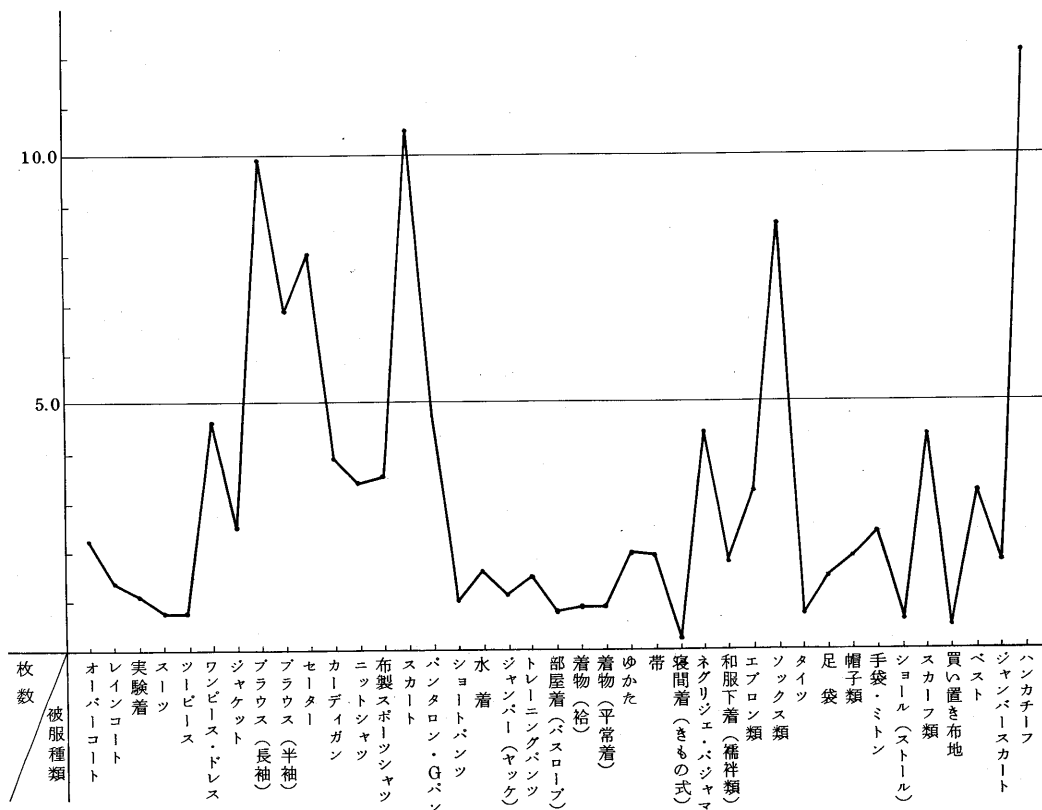
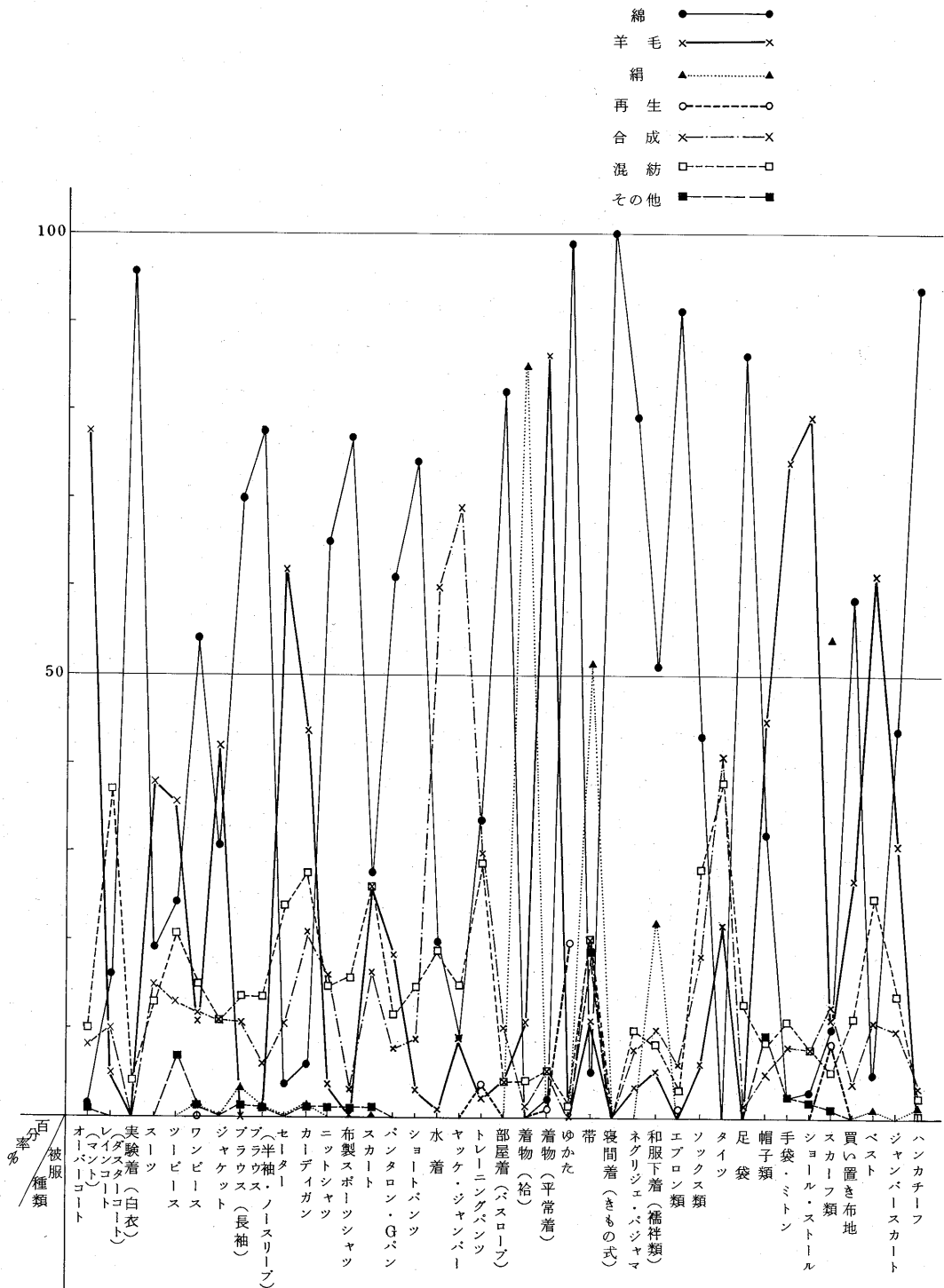


Table (2) 百分率から平均的にみた被服の所持枚数 (1人当り)

※ () 内は百分率

枚数	内容	被服の種類
1枚以下のもの	寝間着 (きもの式) (0.2), 布地買い置き (0.5), ショール (ストール) (0.6), タイツ (0.7), スーツ (0.8), ツーピースドレス (0.8), 部屋着 (0.8), 着物 (袷) (0.9), 着物 (単衣) (0.9)	
1枚以上のもの	実験着 (1.1), ショートパンツ (1.0), ヤッケ (ジャンパー) (1.1), レインコート (1.4), トレーニングパンツ (1.5), 水着 (1.6), 足袋 (1.5) 和服下着 (1.8), ジャンパースカート (1.8), 帯 (1.9), 帽子類 (1.9)	
2枚以上のもの	ゆかた (2.0), オーバーコート (2.3), 手袋 (ミトン) (2.4), ジャケット (ブレザー) (2.5)	
3枚以上のもの	ベスト (3.2), エプロン類 (3.2), ニットスポーツシャツ (3.4), 布製スポーツシャツ (3.5)	
4枚以上のもの	ネグリジェ (パジャマ) (4.4), スカーフ類 (4.4), ワンピースドレス (4.6), パンタロン (Gパン, スラックス) (4.7)	
6枚以上のもの	ブラウス (半袖, ノースリーブ) (6.9)	
8枚以上のもの	セーター (8.0), ソックス類 (8.6)	
9枚以上のもの	ブラウス (長袖) (9.9)	
10枚以上のもの	スカート (10.5)	
12枚以上のもの	ハンカチーフ (12.1)	

Fig.(2) 被服種類別の各繊維に於ける百分率



ーセント)，カーディガン（378枚，3.9パーセント）であり，一人につき4枚のものとしては，スカーフ類（実数418枚，パーセンテージ4.4），ネグリジェ（パジャマ）（439枚，4.4パーセント），ワンピースドレス（440枚，4.6パーセント），パンタロン（Gパン・スラックス）（448枚，4.7パーセント）である。

（Fig.(1)，Table (2)を参照されたい。）四季を通じて使用するハンカチーフの所持枚数が12.1パーセントと一人当りの平均枚数も多いことは，衛生的にみても，（実用面）服飾面（美的側面）からみても妥当であろう。又，6枚から10枚を所持するという，ブラウス類（長袖，半袖，ノースリーブ），セーター，スカート，について検討する時，女子学生は，着用し易い組み合わせを好み，気軽にその形態の変化を作り出し，肩の張らない衣服生活を営み，衛生面，美的側面にも神経のアンテナを張っているようである。（後述するが，ブラウス，ハンカチーフの中に絹製品もみられる。）又，ソックスの組枚（8.6）についてみても，気軽に取り替える有り様がうかがわれ，清潔さを保つという観点からも妥当なパーセンテージを示したものであろう。以上毎日取り替え着用する被服に反し，平均的に4枚以上所持している，スカーフ類，ワンピースドレス，パンタロン（Gパン，スラックス）は，美的価値感を満足させる目的も軽視出来ない。又，四季を通じて着用しつづけるというものでもない。（ワンピースドレスは夏季のものが多い。）ネグリジェ（パジャマ）については，夏季用のもの，冬季用のものと，それぞれ区別して所持されている事実は，後述する被服の構成繊維の箇所でも指摘したい。替えのネグリジェ（パジャマ）を所持していることも妥当であろう。3枚以上の所持を示したベスト

（3.2）も，服飾的価値，実用性（春秋季には，ブラウスの上に組み合わせ，冬季には上着の下に中間着として着用しているという事実），共に上手な使用法であろう。エブロンは，働き着としての実用性と美的価値を満足させるのに妥当な枚数

（3.2）を示したことにちなろう。ニット，布製のスポーツシャツがそれぞれ

（3.4～3.5パーセント）女子学生に好んで着用されているのは経済面（購入しやすい），機能面（着用しやすい），衛生面（洗濯，乾燥が手軽に出来る）の要求も満足させ，平常着として，組み合わせの着用も出来やすい（スカート，Gパン，スラックス，ショートパンツ，etc…）という利点もある。次に，2枚以上所持するオーバーコート（2.3），手袋（ミトン）（2.4），ジャケット（プレザーコート）（2.5）も替え着の目的に合致する。ただ，ゆかた（2.0）の所持については，SS自身が家政科の学生でもあり，教材として製作したという特殊性もみられる。（同時にゆかたを着用・所持するということを通じて，和服への関心も高まりつつあることも事

実のようである。)又、一人1枚は所持しているものとしては、実験着(白衣)(1.1)でSSの専攻の関連という特殊性もある。スポーツ用品としてのヤッケ、トレーニングパンツ、水着、ショートパンツは生活に余裕がみられ、女子学生には是非欲しい被服であろう。又、これらの被服から青年期の余暇の健康的な一端も指摘出来るようである。足袋、和服下着、帯については、和服への関心の芽生えもみられた。レインコート(ダスターコート)、帽子類は、美的側面、実用性(衛生面)からも当然所持されていてよいであろう。最後に、スーツ(0.8)、ツーピースドレス(0.8)の所持数が少ない結果があげられるが、SSは、いわゆる肩の張るスタイルは好まない傾向をみたとも言えるであろう。これは、社会、文化からの影響と経済面から、その生活水準にも帰因する結果であろう。これは、所持枚数が1枚以下とパーセンテージに示された着物(袷、単衣)、部屋着、ショール(ストール)、布地の買い置き、きもの式寝間着についても言及することが出来るし、女子学生にとっては、必需品ではないことは指摘してよいであろう。

以上、述べて来たことから、殊に、女子学生のリラックスした動きは、同時に、日常の被服生活の上にも指摘出来るであろうし、被服管理の面からは、使い捨てても惜しくない整理法をも、手軽に取るであろうことも推察される。

Table (3), Fig. (2)は、構成繊維別にみた、各被服の総数よりみた実数と、そのパーセンテージを示すものである。ヤッケ(69パーセント)、水着(60パーセント)の合成繊維、ショール(ストール)(79パーセント)、手袋(ミトン)(74パーセント)、着物(単衣、平常着)(86パーセント)、オーバーコート(78パーセント)、セーター(62パーセント)、ベスト(61パーセント)の羊毛、又、着物(袷)(85パーセント)、スカーフ類(54パーセント)、帯(51パーセント)の絹の他、木綿は、先ずねまき(100パーセント)、ゆかた(99パーセント)、実験着(96パーセント)、ハンカチーフ(93パーセント)、部屋着(82パーセント)、エプロン類(91パーセント)、足袋(86パーセント)、ブラウス(半袖、ノースリーブ)(78パーセント)、ネグリシユ(パジャマ)(79パーセント)、布製スポーツシャツ(78パーセント)、ショートパンツ(74パーセント)、ブラウス(長袖)(78パーセント)、ニットスポーツシャツ(65パーセント)、パンタロン(Gパン)(61パーセント)、布地の買い置き(58パーセント)、ワンピースドレス(54パーセント)、和服下着(襦袢)(51パーセント)がいずれも50パーセント以上を示すものであり、女子学生には殊に、木綿で

Table(3) 被服種類別の各繊維の百分率

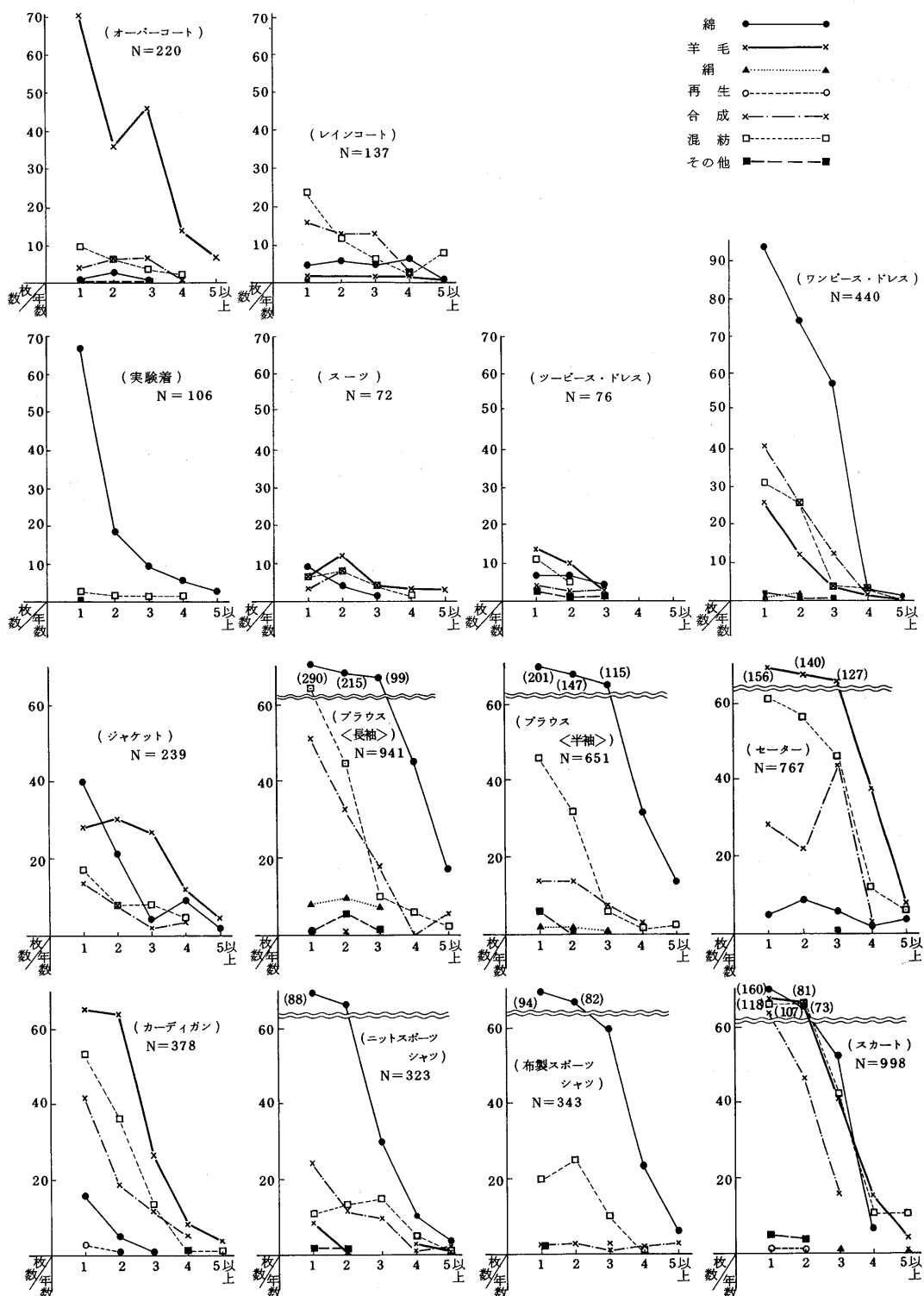
※()内は実数

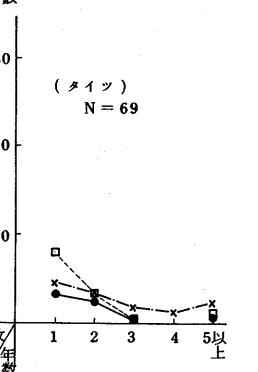
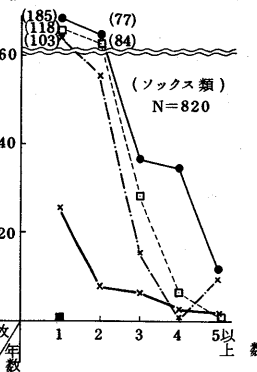
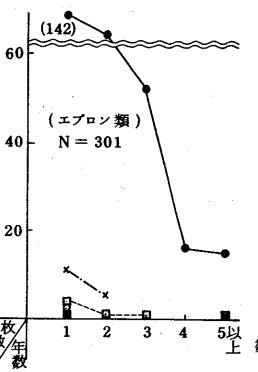
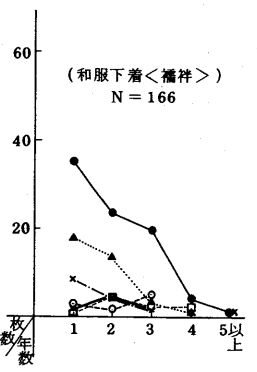
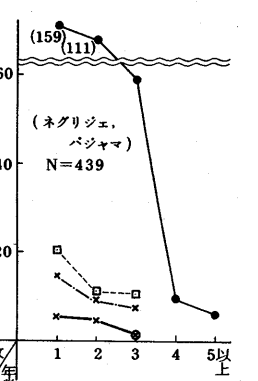
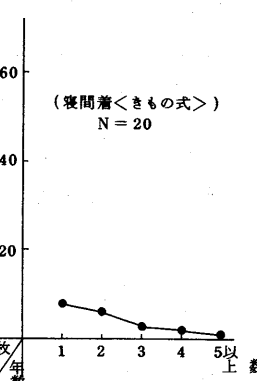
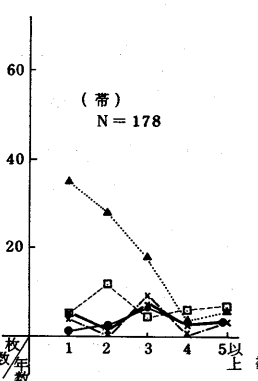
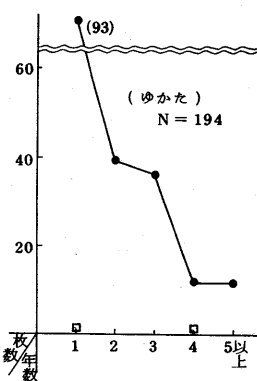
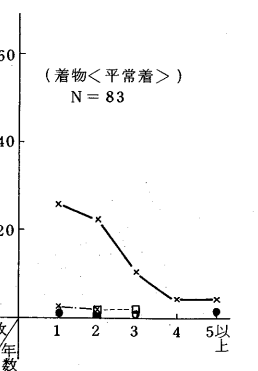
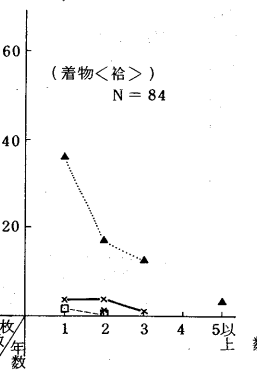
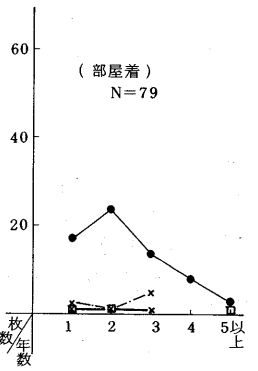
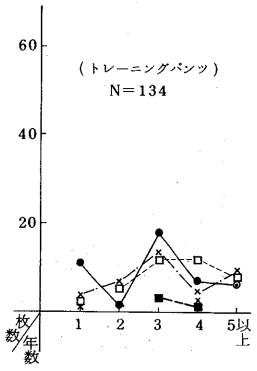
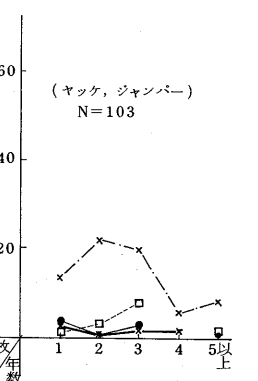
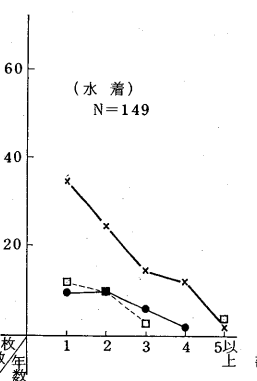
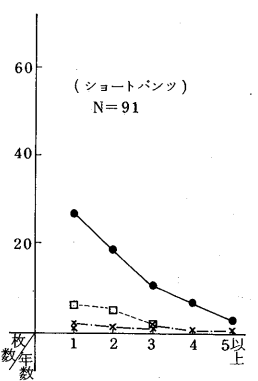
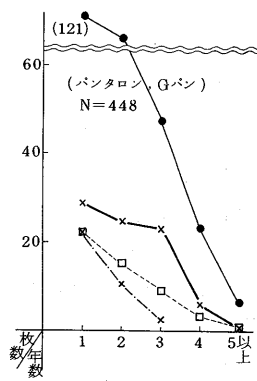
種 類 \ 織 維	綿 (%)	羊 毛 (%)	絹 (%)	再 生 (%)	合 成 (%)	混 紡 (%)	その他 (%)
オーバークート	2 (5)	78 (173)	—	—	8 (18)	10 (22)	1 (2)
レインコート	17 (24)	5 (7)	—	—	40 (55)	37 (51)	—
実 験 着	96 (102)	—	—	—	—	4 (4)	—
ス ー ツ	19 (14)	38 (28)	—	—	15 (11)	13 (19)	—
ツ ー ビ ー ス	24 (18)	36 (27)	—	—	13 (10)	21 (16)	7 (5)
ワ ン ビ ー ス	54 (236)	11 (49)	1 (4)	0.2 (1)	12 (83)	15 (67)	1 (4)
ジャケツト	31 (75)	42 (100)	—	—	11 (27)	11 (37)	—
ブラウス (長袖)	70 (664)	0.2 (2)	3 (25)	0.1 (1)	11 (107)	14 (135)	1 (7)
ブラウス (半袖)	78 (511)	—	1 (5)	—	6 (39)	14 (89)	1 (7)
セ ー タ ー	3 (26)	62 (469)	—	—	11 (88)	24 (183)	0.1 (1)
カーディガン	6 (22)	44 (168)	—	1 (4)	21 (78)	28 (104)	1 (2)
ニットシャツ	65 (204)	4 (14)	—	—	16 (51)	15 (50)	1 (4)
布製シャツ	78 (269)	1 (3)	—	—	3 (12)	16 (56)	1 (3)
スカ ー ト	28 (292)	26 (263)	0.1 (1)	0.2 (2)	17 (171)	26 (260)	1 (9)
パンタロン・Gパン	61 (274)	19 (84)	—	—	8 (37)	12 (52)	0.2 (1)
ショートパンツ	74 (67)	3 (3)	—	—	9 (8)	15 (13)	—
水 着	20 (30)	1 (1)	—	—	60 (89)	19 (29)	—
ヤッケ・ジャンパー	9 (9)	9 (8)	—	—	69 (71)	15 (15)	—
トレーニングパンツ	34 (45)	2 (3)	—	4 (6)	30 (40)	29 (39)	4 (5)
部 屋 着	82 (65)	4 (3)	—	—	10 (8)	4 (3)	—
着 物 (裕)	—	11 (9)	85 (71)	—	1 (1)	4 (3)	—
着物 (平常着)	2 (2)	86 (71)	—	1 (1)	5 (4)	5 (4)	1 (1)
ゆ か た 帯	99 (192)	—	—	—	—	1 (2)	—
	5 (8)	11 (20)	51 (91)	—	11 (19)	20 (35)	3 (5)
寝間着 (きもの式)	100 (20)	—	—	—	—	—	—
ネグリジェ・パジャマ	79 (345)	3 (13)	—	0.2 (1)	8 (36)	10 (44)	—
和服下着 (襦袢類)	51 (85)	5 (8)	22 (37)	8 (10)	10 (16)	8 (10)	—
エ プ ロ ン 類	91 (274)	—	—	1 (2)	6 (17)	3 (7)	0.3 (1)
ソ ッ ク ス 類	43 (354)	6 (47)	—	—	23 (186)	28 (232)	0.1 (1)
タ イ ツ	—	22 (15)	—	—	41 (28)	38 (26)	—
足 袋	86 (121)	—	—	—	1 (1)	13 (18)	—
帽 子 類	32 (57)	45 (80)	—	—	5 (8)	9 (15)	9 (16)
手 袋	2 (4)	74 (171)	—	—	8 (18)	11 (25)	5 (12)
ショール・ストール	3 (2)	79 (48)	—	—	8 (5)	8 (5)	2 (1)
ス カ ー フ 類	10 (41)	11 (46)	54 (224)	8 (32)	12 (51)	5 (21)	1 (3)
布地 (買いおき)	58 (32)	27 (15)	—	—	4 (2)	11 (6)	—
ベ ス ト	5 (16)	61 (187)	1 (4)	—	11 (36)	25 (63)	—
ジャンパースカート	44 (76)	31 (54)	—	—	10 (18)	14 (25)	—
ハ ン カ チ ーフ	93 (1072)	—	1 (12)	—	3 (31)	2 (23)	1 (17)
Total	(5655)	(2289)	(474)	(60)	(1482)	(1808)	(107)
\bar{X}	(145)	(71.4)	(47.4)	(6.0)	(41.2)	(47.6)	(5.1)
総 計	11875 (1696.4)						

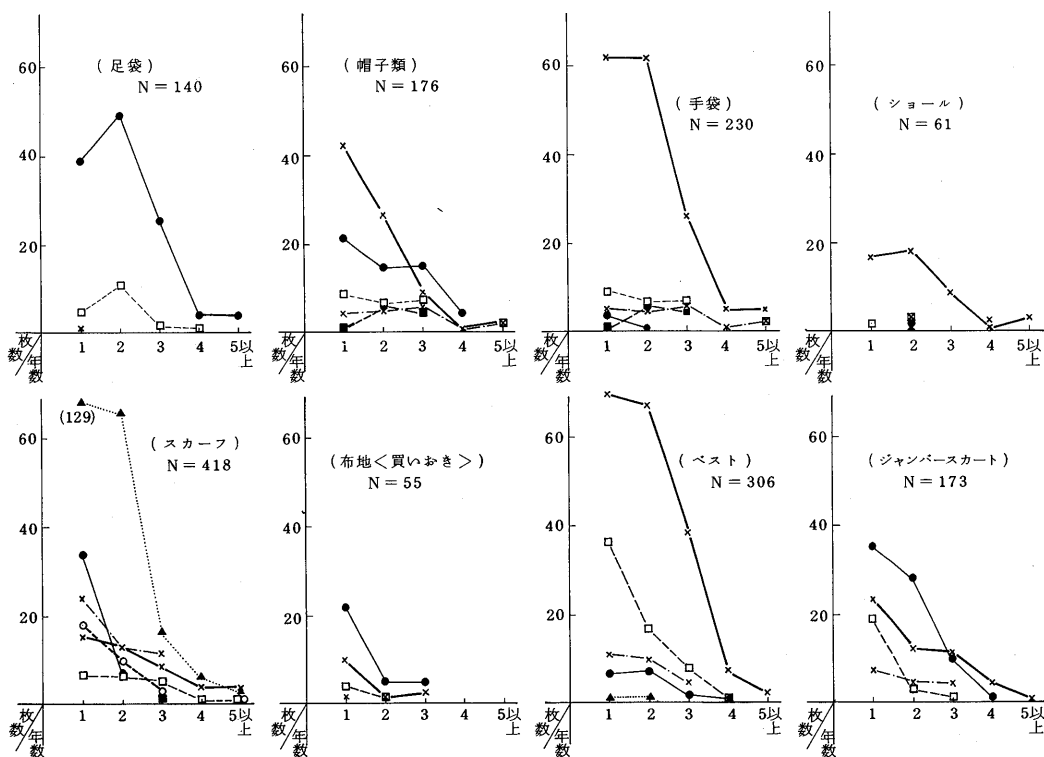
構成された被服が数多く所持されていることを示すものである。50 パーセントを示す繊維があるとして指摘されない被服についてみると、レインコートは混紡製品があげられ、多くは、綿と合成繊維との混紡が主であった。スーツは主に羊毛であるが、綿、合成、混紡と分散している。ツーピースについてもスーツとの構成繊維は同一であるが、各々の繊維の占める値は分散し、羊毛、綿、混紡、合成、その他の順位になっている。又、その他の繊維は麻を示すものである。ジャケットでは羊毛がトップを占め、次いで木綿で合成、混紡（羊毛と合成）と分散している。カーディガンも、羊毛がトップを占め、次いで、羊毛と合成の混紡、合成繊維の順位を示している。スカートは綿、羊毛、混紡が分散し、次いで合成の順位となっている。これは、夏期と冬期とを区別して着用しているようである。トレーニングパンツも、綿、合成、混紡が分散している。つまり、幅広く繊維は使用されている。帯について取り上げると、絹の外に、混紡、合成、その他（麻）の順位で、絹を除いては、混紡合成は平常用として広く着用されているようである。ソックスは綿、混紡、合成、羊毛の順に分散し、広く使用されている。又、タイツは、合成、混紡、羊毛と分散して用いられている。帽子類は、羊毛が最も多く、次いで綿が占めている。帽子は夏期の陽よけ、冬期の防寒、とその目的に応じて使いわけているようである。最後に、ジャンパースカートは、綿、羊毛、混紡、合成の順位で、分散使用されているという結果（実態）をみたことになる。

Fig.(3)は被服の耐年数を被服の構成繊維別に各々の被服の種類により、検討したものである。オーバーコートは羊毛が最も多く耐年数は一応、3年とみなしてよいであろう。レインコートでは混紡が1年、合成は一応3年とみなしてよいし、綿は4年ということになり、それぞれの繊維に依り耐年数が異なるという結果を得たことになる。実験着は1年という経年数であるが、これは、耐年数と考えるよりSSの購入した時期が一定であり例外のケースとしたい。スーツの耐年数も一応3年とみなしてよいであろう。ツーピースドレスは2年であろうか。ワンピースドレスは、いずれの繊維に於いても3年ということになる。ジャケットは、羊毛では3年、綿は2年、合成、混紡についても2年とみてよいであろう。ブラウス（長袖）は綿では一応3年であろう。合成、混紡は2年までで以後、急激な下降を示す。ブラウス（半袖）は、綿では3年、混紡2年、合成は2年から3年にかけてゆるやかな下降を示してはいるが、一応3年とみなしてよいであろう。セーターは、構成されているすべての繊維について3年の耐年数であるとみてよいであろう。カーディガンは2年から3年の間に急激な下降を示してはいるが、繊維に老化現象が起っていると

Fig.(3) 繊維別被服所持枚数と経年数







は言え、一応3年の耐年数とみてもよいであろうが、セーターと比較するとカーデ
ィガンの性格からみても、上に羽織ったり、中間着にも着用することからも、痛み
が激しいのであろうか。ニットスポーツシャツは、3年の耐年数である。布製スポ
ーツシャツは綿では3年、合成、混紡では2年であろう。スカートは、綿、合成混
紡では3年、羊毛は2年、データーは少ないが絹の場合は、使用する目的も他の繊
維とは異なるためか、3年の耐年性を示している。パンタロン(Gパン)は、綿では
3年の耐年(主にGパン)、羊毛、合成、混紡についても同様の耐年数を示してい
る。ショートパンツは、一応3年であろう。水着は羊毛が4年、綿は3年の耐年数
であろう。トレーニングパンツは混紡では4年、他の繊維では3年の耐年数とみて
よいであろう。部屋着は3年、着物(袷)は5年以上の耐年性を示すものもみられ
る。(主に外出着、訪問着として着用し、大切に保存され、平常着には着用する機
会が少ない。)着物(平常着、単衣)は一応3年の耐年数であろう。ゆかたの耐年
数は一応3年とみて妥当であろう。帯は綿では3年の耐年数、絹は5年以上のもの
もみられる。これは着物袷の絹織物と同様に推察してよいであろう。又、混紡につ
いても同様であろう。他の繊維では3年の耐年数であろう。寝間着(きもの式)は、
元来、所持枚数が少なく、かなり趣味的に取り扱っているようであるが、耐年数は

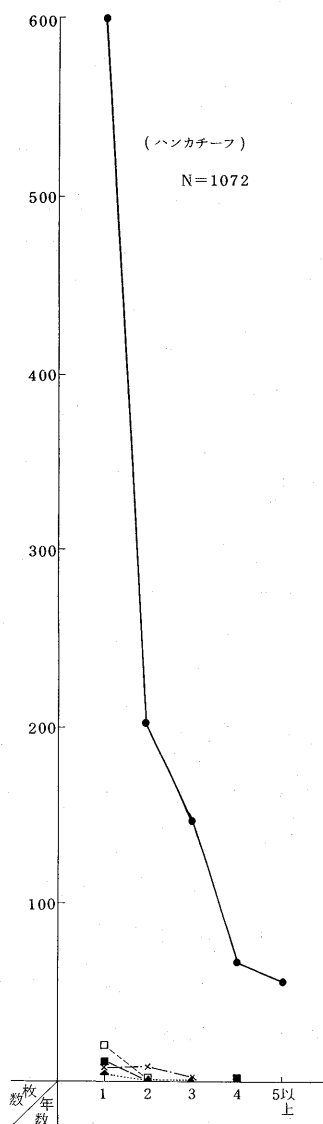
Table(4) 繊維別にみたハンカチーフの
所持経年数

繊維 \ 年数	1	2	3	4	5以上
綿	600	202	148	66	57
羊毛	—	—	—	—	—
絹	7	2	3	—	—
合成	22	13	4	—	—
混紡	20	2	1	—	—
その他	13	4	—	1	—

※繊維、その他は麻を示す。

一応2年であろう。ネグリジェ(パジャマ)は、綿、混紡では3年、合成、羊毛は2年とみてよいであろう。和服下着(襦袢)は、綿では3年、絹織物では2年である。エプロンは、綿では3年、他の繊維は1～1.5年ということになる。ソックス類は、綿では4年、合成、混紡、羊毛では3年ということになる。タイツは、合成で5年以上、綿、混紡では2年の耐年数であろう。足袋は、綿では3年、混紡は2年である。帽子は3年の耐年性が示された。手袋は羊毛、皮、合成、混紡は3年、綿は2年である。ショールについては、羊毛で3年の耐年とみてよいであろうし、合成、皮、綿いずれも2年の耐年性が示されている。スカーフは、絹、羊毛では保存に依っては5

年以上の耐年数が示されているが、混紡では3年、綿、再生では2年であろう。布地の買い置きについては、一応3年迄としたい。ベストは、一応3年とみてよいであろうが、綿では2年のようである。ジャンパースカートの耐年数は一応3年であるが、混紡の場合は1年から2年目の間に急激に下降し、一応1年、綿についても2年から3年の間の下降が激しく、2年の耐年数とみてよいであろう。最後にハンカチーフの場合は圧倒的に綿が多く、その所持年数をみても、1年から2年の間に急激に下降する。(1年目のものは、2年目のものの約3倍を示している。)この結果からも、(1年目のハンカチーフ)3:(2年目)2:(3年目)1.5:(4



年目) 0.5 : (5 年目) 0.5 の割合になっている。即ち、3 年を耐年数とみることが妥当であろう。(Table (4) を参照されたい。)

以上の結果から被服の耐年数は特殊な被服及びその構成繊維 (繊維の老化の激しいもの) を除き、多くのものは一応、3 年という実態が指摘されたようである。又、着用の仕方 (取り扱い) 保存の仕方に依り 5 年以上の耐年数を示したものもあり、質実さがみられた。又、S S 95 名中、わずかに 2 パーセントの者に絹製品 (スカーフ類は例外) の所持もある。この事実は生活水準にも密接に関連しているものとみてもよいであろう。

結 論

東京都内女子学生 (19 才 ~ 20 才) の被服総所持数は、平均一人 125 枚である。女子学生はフォーマルなスーツ、ツーピースドレスの所持は 0.8 パーセントにすぎず、従来の概念からは予想外に少ないという結果である。又、これに反し、セーターとスカート、セーターと G パン (パンタロン) とか、ブラウス (スポーツシャツ) にスカート、セーター、G パンという組み合わせによる工夫が服装の基本として好まれており、季節に依り、カーディガン、ジャケットが、その上に羽織られて着用され、時に依り、絹のスカーフ (一人 4 枚) を用い、その変化と、美的感覚を満足させている。次に被服の種類を繊維別にみると、木綿製品が最も多く、所持 (着用されている。) 次いで羊毛製品であり、合成繊維製品としては、水着、トレーニングパンツ、絹繊維製品では、着物 (袷)、帯、襦袢類があげられる。レインコート、スカート、タイツは、各繊維共に広く分散使用されている。被服の経年数では、例外はあるが (実験着は入学時に購入。教材としてのゆかた)、平均的には、一応、3 年がその限界であろう。勿論、構成繊維の老化度の差も考慮しなければならない。ただ、絹製品は 5 年以上も保存されているという事実もある。しかし、絹を所持している S S は全体の 2 パーセントの者にすぎない。端的に言えば、女子学生は、経済的負担の軽い服装と、手入れ (管理) のしやすい形態 (被服の種類、構成繊維) のものが好まれ、機能的には、動きの取りやすい (ルーズな)、平常着的な (スポーツウェア) も (水着 etc …) 平均して 1 枚は所持している。) 形態が一般的であるのは、社会・文化的影響であろうか。同時に、青年期特有の過渡的状态も、和服の所持数にみられる。即ち、和服への準備期に当り、毎年、何かを 1 枚ずつ支度しつつあるというのが現状であろう。しかし、和服への関心はあっても、日常生活へは結びつきにくいのが平均的 S S の実情であろう。又、被服の管理面からは、他

人任せ（専門的知識・技術を要求される。）の形式ではなく，経済的にも自らの手に合った形態が取られている。同時に，現在も尚，使い捨ての実態（芸術・文化的価値の高い被服迄，次時代へと伝承されにくい状態）であることも指摘したい。そして又，所持被服に計画性の持たれていない実情（購入時の選択法，繊維の損傷の過程に於ける取り扱い方，及び，繊維の老化の時点での再生の問題）も，資源保存の意味から，価値の多様化以前の問題として，「方向づけ」のなされることが要望されるであろう。しかし，現時点での女子学生の所持被服の実態は，社会・文化的影響が強く，動的（形態の自由さ）であり，健康的（衛生面を含めて）であることと，日常生活の中に於ける美的価値に重点を置いていることにも注目を要するし，画一化された（ファッションの傾向）傾向を同時に観察した次第である。

文 献

- ① 繊維学雑誌，Vol. 32 №1～№12，日本繊維学会，1976．
- ② 被服学，日本繊維機械学会，1970．